

令和5年度 第1回下呂市総合教育会議 議事録

1. 開催日 令和5年8月25日(金) 開会 午後2時30分 閉会 午後3時30分

2. 開催場所 星雲会館2階 西風の間

3. 出席者

(1)構成員

市 長	山内 登
教育長	中村 好一
教育委員	三木 朋哉
教育委員	細江 洋一郎
教育委員	河尻 明子
教育委員	小口 晃生
教育委員	田中 由美

(2)市職員 【教育委員会事務局】

教育委員会事務局長	林 雅人
教育委員会教育総務課長	熊崎 賀代子
教育委員会学校教育課長	黒木 和実
教育委員会学校教育課対策監	益田 貴史

【まちづくり推進部事務局】

まちづくり推進部企画課長	中村 裕
まちづくり推進部企画課主事	奥村 和

【スポーツ担当部局】

まちづくり推進部まちづくり推進課長	青木 一英
まちづくり推進部まちづくり推進課課長補佐	大森 隆司

4. 傍聴人 9人

5. 議事の要旨 別紙のとおり

○中村企画課長

定刻前ではありますが、皆様お揃いになりましたので、本年度1回目の下呂市総合教育会議を開催させていただきます。

皆様お疲れ様です。まちづくり推進部企画課の中村と申します。本日司会進行を務めさせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

この会議の後、引き続き定例の教育委員会があると同っておりますが、それまでどうぞよろしくお願いいたします。

本日の出席者のご紹介はお配りしております名簿で紹介に代えさせていただきますので、よろしくお願いいたします。

本日はお手元の次第に基づきまして「下呂市の部活動地域移行とまちづくり」という議題について協議いただきますので、よろしくお願いいたします。

また本会議は公開が原則となっております。事務局において、本会議の議事録を作成し、後日ホームページ上で公開することになりますのでご理解をお願いいたします。

それでは、まず初めに市長からご挨拶申し上げます。

○山内市長

皆様こんにちは。今日は暑い中、お忙しい中お集まりいただきましてありがとうございます。

また今日は、学校関係者の先生方もお越しいただいておりますので、皆様と色々なお話をさせていただければありがたいと思っています。

今日のテーマは部活動の地域移行とまちづくりということですが、先日も金山小学校のメンバーが中心となった下呂南軟式野球の学童野球チームが県下で準優勝されまして、その報告に来てくれました。子どもたちは学校が違っても、同じチームのメンバーとして本当に生き生きと活動しています。あれは部活動なのか、地域のクラブの活動なのか、前回も若干そのようなお話をさせていただいたのですが、我々もあまりそこにとらわれることなく、チームとして活動ができて、そしてスポーツに汗を流し、情熱を燃やす、そんなまちづくりにしていけばいいのかなというような印象を持ちました。

あとは学校統合の話なども、教育長とは今、色々なお話をさせていただいております。

小学校、中学校のあり方であったり、色々なことも、またこれから大きなテーマになってくるのではないかと思います。

様々な自治体の新聞報道でもある通り、多様性の時代になってきて、何が正しくて何が間違っているのか、そもそも間違いがあるのかどうかよくわからなくなってきました。本当に多様性の時代なわけですが、余りにも多様性すぎて、また皆様方とどうやってこれを取りまとめていくのか話し合っていきたい。ただ、皆様と同じベクトルをどう作っていくのかというのは、これまた難しい話だと思います。市民もまだわかっていないところもあるし、私たちもまだわかっていない。先生方もまだ暗中模索の部分があるかと思います。その辺りも含めて、時間をかけてやっていきたい。この総合教育会議を今後はもっと頻度を増やさなければならいかもしれませんので、また皆様方にはその分、ご足労おかけすると思いますが、どうぞ、様々な形でご提言賜りますことをお願い申し上げまして、冒頭のご挨拶とさせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

○中村企画課長

ありがとうございました。続きまして、教育長より挨拶をお願いいたします。

○中村教育長

こんにちは。今日は校長先生方にもたくさん来ていただきまして、ありがとうございます。

総合教育会議というのは、市長と教育委員会の意思疎通を図って、教育の課題に対してどうするかということを考える目的があります。

実は昨日、PTA会長の会があり、その中で「部活動が地域移行をされると言われているけれど、部活動から切り離して地域移行をするのはいつなのか」という話が出たそうです。そのような話は校長会でも1回もしていませんが、そういうことがどんどん独り歩きしているというようなこともあり、やはりこういった会議の場で少しでも良い方法を考えながら、広めていくことが大事かなと思いますので、よろしくお願いします。

また、教育行政をやりながら感じているのは、国から様々なことを言われますが、やはり下呂流、下呂の地域に合った形が本当に大事なことでと思いますので、それを踏まえて提言をいただければありがたいと思います。どうかよろしくお願いいたします。

○中村企画課長

ありがとうございました。それでは早速ですが、議題に入ります。

本日の議題は、「下呂市の部活動地域移行とまちづくり」でございます。それでは、教育委員会事務局から説明をお願いいたします。

○益田学校教育課対策監

今日は「下呂市の部活動地域移行とまちづくり」ということで、お手元の資料を基に説明させていただきますと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

令和4年度の動きとして、令和5年度から7年度までの3年間で部活動の地域移行を完了するようスポーツ庁から通知があったことは、すでに周知されていることではありますが、実はこうした通知が出る前に、すでに下呂市では今後の部活動のあり方について検討がなされてきました。それはなぜかといいますと、資料3ページの左側の表をご覧ください。平成21年から令和2年までの生徒数と教員数の推移をまとめたものです。この表からわかることは、12年間で生徒は337名減少、職員は最大数から26名の減少となったことがわかります。

この数値を部活動との関連で見ますと、全体で部活動の数が5つしか減っていない状況にもかかわらず、1部活あたりの生徒数は約5名も減少しており、1つの学校での練習や大会参加ができなくなってきたり、教職員は1部活動に1顧問という状況が加速しまして、休みにくい指導体制が余儀なくされてきました。

まとめますと、生徒における課題としては、学校規模によって多少違うものの、試合形式の練習に支障を来す場合が出てきたり、やりたい部活動がない、選択肢が少ないなどが挙げられるようになってきました。そして教職員における課題としましては、部活動の数を減らすことがなかなかできなかったり、顧問1人体制で休みづらいことが挙げられるようになってきました。

そうした下呂市の実態を把握した上で、下呂市では既に下呂市部活動のあり方検討会が実施さ

れ、下呂市部活動構想というものを作成し、生徒にとって有益で、持続可能な部活動のあり方の検討がなされ、資料 7 ページにあるコンセプトを設定しました。

こうした流れを汲んで取り組んできた下呂市部活動の地域移行について、昨年度の会議で報告させていただいた 4 つの課題についての進捗状況を報告いたします。

まず 1 つ目の課題である、段階的な休日の地域移行に関わる体制づくりについてです。

本年度は、合同部活動として、平日は学校の先生が顧問として指導し、休日は合同部活動を実施し、原則拠点校での活動を学校の顧問の先生と地域クラブ指導員で運営をしています。特に今年度から各学校における社会人コーチへの委嘱は取り止め、教育委員会が一括で指導者を任命するという体制をとり、指導者の質の向上や、地域移行の意義や協力体制を市内の 6 中学校で統一して運営をしています。この休日における合同部活動を令和 6 年度からは地域クラブ活動として、地域クラブ指導者のみで指導・運営できるように、校長会や指導者研修会でも、交流会や勉強会を開き、確認をして進めています。今後、地域クラブ指導員は、現在の社会人コーチと小中学校の部活動にやりがいを感じている教職員で構成していくように進めています。

ちなみに、総合型地域スポーツクラブとの繋がりや、平日夜の習い事としての活動という件で、確認をしました。そして、学校の部活動にはない、サッカーや水泳、体操など、その他のクラブに加入している生徒に関しては今まで通り、学校の活動外としてとらえて進めていくということとしております。

次に、移動手段の確保に関わる支援体制についてです。

現在の部活動にかかる市からの補助は、資料の 10 ページに示してあるものとなります。詳細説明は省きますが、ここまで手厚い体制をとっているのは、飛騨地区はもとより、県下でもトップクラスです。特に地域移行に関わっては、保護者が負担しなくてはいけない移動にかかる交通費について、スクールバスの運行と公共交通機関を使用することで、いわゆる受益者負担に関わる部分への予算を市で確保し、保護者の経済的支援体制が整っています。まだ課題はありますが、今後も住みやすいまち、子育てしやすいまちづくり下呂を推奨した部活動の地域移行につなげていけるように、よりよい体制づくりをしていきたいと考えております。

課題の 3 つ目でございますが、合同部活動の推進についてです。

今まであった 51 部活動が、現在 29 部活動になり、拠点校方式の体制が整い、大きな混乱もなく、合同部活動を進めることができます。昨年度話があった、ハイブリット型や保護者主導型という形ではなく、すべての部活動において地域移行がスムーズになされる体制は確立できる状況にあります。

今年度、自校にはない部活動に参加している学校は、資料 11 ページの下部に挙げている通りです。今週愛媛県で行われた、中体連陸上競技の全国大会に出場した生徒が所属する萩原北中学校には陸上部はありませんでした。合同部活動の推進がなければ、その生徒さんや保護者をはじめ、学校や下呂市全体で大きな感動を分かち合うことができなかったことを考えますと、今後も生徒のニーズを大切にしたい体制づくりを推奨していきたいと考えているところであります。

最後に、4 つめの指導者の確保についてです。

指導者の確保については、休日における指導者の確保は当初心配していた案件でしたが、指導者の確保に当たり、まず指導者の必要数の検討を行いました。指導者数を決める前提として、1 クラブ 1 名体制では休むことができない。現在の教職員の環境と同じようにならないよう、指導

者数をまず1クラブ2名以上としました。そして、合同部活動を推進している部に関しては、指導者の上限を合同学校数プラス1名までとし、人数を算出しました。その算出した条件で、現在の社会人コーチを充てると、約半分が確定することがわかりました。残りの半分の指導者を確保するために、校長会の協力も得ながら、小中学校の教職員に対して地域クラブ指導員募集のアンケートをとりました。その結果、37名の教職員が来年度、地域クラブ指導員としてやりたいということで手を挙げ、ほぼクラブ指導員の確保ができる見通しが持てました。また、まだ不足しているクラブはありますが、各競技連盟や指導者研修会で声かけをさせていただくことにより、何とか指導者の確保ができそうな見通しは持てております。

合同部活動ですが、これまでに様々な課題を克服しながら推進してきました。成果についてですが、「特にやりたいことができて嬉しい」「多くの仲間と競える練習ができて嬉しい」「専門的な指導が受けられて力がつく」といった生徒の生の声は、下呂市の部活動が狙うコンセプトから見ても嬉しい声となっております。また結果ばかりに着目してはいけないとは思いますが、全国大会や東海大会に出場する選手やチームが増え、自分も頑張れば全国大会へ行けるかもしれないという、大きな夢や目標を持って、部活動に励むことができることは大変嬉しいことだと思っております。

以上、昨年度から今年度前期にかけての取り組みを報告させていただきました。

今後の地域移行のあり方、ビジョンについては教育長から説明させていただきます。

○中村教育長

今後についてということで、お話しさせていただきます。

まず令和6年度について、合同部活動が地域クラブに名前が変わります。大きな違いは、やりがいを感じている地域クラブ指導者に各地域クラブの運営を行っていただくこととなります。学校の先生方で関わるのは、やりたいと手を挙げた先生だけというような運用を、県下では最初になるとは思いますが、やらせていただきます。そのためには、自分たちで運営していく喜びがないと継続していかないということを思います。

検討課題としては3つ。1つ目は運営方法の構築。2つ目は予算措置などの支援体制。3つ目は今後の地域クラブとまちづくりという点を課題として話をさせていただきます。

まず運営方法の構築につきましては、今後は先生の手を離れます。もちろん、中には先生も関わることがありますが、だからこそ責任者を明確にして、指導者の役割や学校の役割を明確にする。例えば、安全が大事になりますので、生徒と指導者の出欠の確認の仕方なども考える必要があります。また登録や大会の申込みはどうするのか。学校が中心になると思いますが、それらについても考えていかなければなりません。年間指導計画、日々の練習計画、顧問との連絡方法、事故対応、生徒の引率、移動方法、保護者会の設置などについても考えていかなければなりません。

前回の総合教育会議の中で、責任はどうなるかという意見があったそうですが、責任を持つのは学校です。そういう方向で進めていきたいと思っております。

2つ目の課題の支援体制です。まずは指導者の謝金について、今年度は報償費として市へ367万2000円を予算計上しておりますが、来年度、地域クラブとして活動する場合、82名の指導者が必要であります。今までは、教職員は部活動手当を支給しておりました。しかしこれが地域クラ

ブでの運営ということになって、市の予算ですべて賄おうとすると、1回 1500 円で 590 万 4000 円が必要になってきます。教職員の部活動手当の金額に近づけるため1回 2000 円で計算すると、787 万 2000 円が必要になってきます。それで今、県への要望ということで考えているのは、顧問の先生方に支払われていた部活動手当が地域移行によりなくなるため、その費用をぜひ、地域クラブ指導員への謝金に充てていただけないかということです。もし部活動手当が形を変え継続して使用することができると1回 2000 円の場合でも市の負担は 432 万円というような金額になってきます。その辺は県へ要望していきたいと考えております。

支援体制の2つ目は、本年度、各校長先生や部活動を担当している先生から要望がありました。夏休みの平日も練習をやっていただけないかということです。

今年度の夏休みの練習は土日のみです。なぜかという、指導者を地域の方をお願いしていますので、多くの方が平日は来ることができないからです。しかし、先生方からは練習内容は地域クラブの指導者が指示していただけるので、教職員でも指導できますという話もありましたので、来年の夏休みは平日も10日程度実施できればありがたいというふうに思います。ただし移動費などのことを考えると、予算が必要になってきます。

支援体制の3つ目は、既存の補助制度についてです。

先ほど益田対策監から話がありましたが、下呂市からの手当は本当に手厚いです。先日、教育長会に行きましたが、他市からは、どうして下呂市はここまで部活動に手当を充てられるのかということを言われました。我々は当たり前にしていましたが、大変ありがたいことだと思います。

保護者の経済負担ですが、市からの補助があっても、各部活動の部費に最低でも1万2000円ほどかかっています。多いところは3万6000円かかっているということで、なかなかこの負担というのは大きいと思います。従って、しっかりこの補助をこのまま継続していく方向で何とかしていきたいと考えております。

課題の3つ目は、今後の地域クラブとまちづくりという課題です。地域住民とともにということで、下呂市にスポーツ協会がありますが、その強化をしていくことが大事なかなと思います。

1つは、地域クラブ指導者の任命を今は競技団体からの推薦を受けて、教育委員会が行っていますが、これをスポーツ協会が行うという形に変えたいと思っています。地域の指導者には長年携わってきた方も多く、色々なことを言われます。そんな時に、学校が指導者を任命する立場にいるのではなくて、評価する立場としてあることで、地域の指導者の育成に繋がるし、行き過ぎた指導を防止することにも繋がると思います。ですから、任命を何とかスポーツ協会に一任していきたい。それで学校の評価に対しては調査、指導していくというようなことが必要なのではないかと思います。

次年度におきましては、教育委員会が中心になりまして、県や地区と連携して、指導者のプログラムを作成していきたいと思っています。

また「地域住民とともに」ということで、今後のことについてです。

今、下呂市のスポーツ競技団体の参加人数も減っているという声が、スポーツ審議会の方から出ております。従って、この下呂市の地域クラブの中に一般も入れて、一緒に活動するということを考えれば、「地域住民とともに」ということになるのではないかと思います。競技性を追求する社会人や、小学校の高学年、或いは高校生なども一緒になって行っていくことが大事だと思います。課題であるのは、練習内容の吟味や練習場所の割り振りなどが必要になってくることです。

ただ一緒になって行うということが「地域とともに」、もっと言えば将来的なことを考えれば、指導者の育成にもなってくると思います。こうすることで持続可能な活動ができるのではないかと考えます。

スポーツクラブは資料 22 ページに載っているような協会がありまして、競技団体、スポーツクラブとありますが、持続可能な活動を築くことで競技人口も増やし、スポーツクラブへの加入を増やすということを、やっていくことができるのではないかなと思っています。

またこのような「地域とともに」ということになってくれば、スクールバスの利用や、さらなる交通網の整備などを行うことによって、まちづくりに繋がらないかなということを思います。

最後のまちづくりについては、今後の夢のようなことを語らせていただきましたが、できない夢ではないと考えております。このような方向で進んでいく下呂市地域クラブ構想ということでお話をさせていただきました。以上です。

○中村企画課長

ありがとうございました。持続可能な地域クラブを目指してということで、検討課題が挙げられていたかと思います。こちらの事務局からの提案につきまして、皆様から自由なご意見をお願いできればと思います。まず、ご意見があるという方は挙手をしていただければと思いますが、いかがでしょうか。

では、各委員さんの方からご意見をいただければと思います。まず、田中委員さんからお願いいたします。

○田中委員

前回の会議で課題に挙げた移動手段の確保が今年度はスムーズにできているようで、保護者の方からも「バスを出してもらえてありがたい」、「家庭で送り迎えをしなくていいのでとても助かる」という声を聞いています。

現在、合同部活動として活動しているものが、いきなり来年度地域移行して、先生がやられていることを指導者の方がやらなければならないということで、負担は十分大きいのではないかなと思いますが、その辺りはどうなのでしょう。

○益田学校教育課対策監

研修会等も実施させていただいておりまして、今年は7月に実施しました。お金はいらないからやらせて欲しいという指導者の方も多く、本当に情熱でやっていただいている面もあります。ただそれだけでは持続可能にはなりませんので、やはり皆で支え合いながら地域クラブを運営していける形を作っていきたいということでお話をさせていただいております。それから、現状確保できた指導者の半数は教職員に担っていただけたので、幅広い競技に対応できます。ただ、その辺りについては今後も不安材料ではあるかなと思いますので、事務局としても、研修会やサポート体制を充実させていく必要があると考えています。

○中村企画課長

ありがとうございます。では続きまして、河尻委員お願いします。

○河尻委員

先ほど説明していただいた中の課題３－１の中で、地域クラブの指導者の任命は競技団体の推薦によりスポーツ協会が行い、学校は評価者ということでしたが、評価者にまわるのは、行き過ぎた指導だとか、偏った内容だとかというものにならないように、外から見て、評価できるという利点はあると思います。しかし、それが強制力を持ったものなのか。指導者の方は、それぞれ独自の指導方針を持ってらっしゃると思います。注意をしてもしばらくの間は良い状態になるけれども、しばらくすれば元に戻ってしまうというようなことが起こり得ないよう強制力を持った内容で、評価ができるのかどうかということをお伺いします。

それから、地域クラブにも地域クラブの決まり事などがあると思いますが、その地域クラブ側の決まり事と、それぞれの部活で行っていた決まり事とのすり合わせが、うまく進めば気持ちの面でもすんなり受け入れていけるとと思います。その辺りのすり合わせというのは、顧問の先生がされるのか、教育委員会事務局が入って、きちっと細かいところまですり合わせをされるのかということをお伺いしたいです。

○益田学校教育課対策監

１つ目の学校が評価者になるというご質問ですが、指導員の任命は、現在は教育委員会が委嘱していますので、その責任は教育委員会に今のところあります。また、子どもたちがどんな思いで、先ほどの下呂市の部活動のコンセプトが本当に充実した形でとらえられて、指導できるのかということで行ってきました。今後は学校も生の声を聞きたいということで、そういった形で評価者としていただく。それと、私たちが今実施しています研修会を通して、今の学校の先生方がやっているようなことを指導員に伝えていることを、保護者の方にも周知することで、保護者の方も安心して、子どもさんを預けていただけるような体制にしていきたいなと思っております。

２つ目のクラブの決まり事と部活動の決まり事ということですが、今まさにそのことについて取り組んでおりまして、来週８月３０日に中体連の下呂市の理事会があります。各種目における委員長が集まっての会合になります。今までは自分の部活動のことしか考えていなかったのですが、こういった合同部活動の流れが、昨年度からずっと取り組んでいる中で、すべての競技を束ねていくという思いでリードしてくださっています。それで、行く末は、例えば、北と南で１つずつになるかもしれないし、人数から見ると、最後１つにならないといけないということも考えますと、現状バラバラの部活動の部費や取り決めなどをすり合わせながら１つにして、そのままクラブへと同じ決まりを持ってやるようにしていきたいと思っています。保護者や子どもたちにとっては地域移行したのかと思うくらい、今の合同部活動の形で移行していきたいということは考えております。

○中村教育長

それぞれのクラブと部活動のルールが違うということですが、下呂市の部活動には下呂市部活動ガイドラインというものがあります。このガイドラインを基にクラブと部活動の統一的なガイドラインを作成しようと考えております。従って、まず規則的なものは大きく変わることはありません。指導方法については色々勉強しながら学んでいくものだと思いますが、そういう方向で一本化するというのもこのメリットだと思っております。

○中村企画課長

ありがとうございます。では続きまして、三木委員お願いします。

○三木委員

まず、このように固まりつつある状況を、該当する保護者、もしくは今後該当していくような保護者たちに、どのようなスケジュールで、どのような形で説明会というか、伝えていくのか、お聞かせください。

○益田学校教育課対策監

こうして固まりつつあり、固まってきた内容についてですけれども、まさに今、新チームに入れ替わる期間になりますので、そのタイミングで各種目のリーダーになる人を確認しております。また、各学校から、育成会にご紹介があると思いますので、その折に学校から話をしていただけるように、お願いをする予定です。

○三木委員

ありがとうございます。もう1点質問ですが、現状には部活はないが、スポーツクラブで小中学生が多く関わっているバドミントンのような競技について、当然単独校ではできないけれども、集まってやったらできるし、やりたい指導者も確保できる。そういうような競技の新規の部活動の立ち上げということについてはどのようにお考えでしょうか。

○益田学校教育課対策監

今のところ、新規の部活動ということは考えておりません。総合型地域スポーツクラブにそういったクラブがございますので、そこで自分のニーズを満たしていただきたいと思っております。資料にある人数の減少の表を見ていただくとわかると思いますが、クラブの存続自体が難しい状況でございます。今ある部活動の地域移行ということで、地域クラブを立ち上げていきたいと思っておりますので、新規の部活動の立ち上げは考えていないということです。

○三木委員

ありがとうございます。あと2点感想です。

まず小中学校の教員の方が37名、現状指導者として手を挙げてくださっている。それはすごくありがたいことで、そちらのフォローもあるということです。しかし、逆に嫌な言い方をしますが、ここの資料にあるやりがいを感じない先生。つまり今までは関わっていらっしやっただけけれども、ある時を機に部活動から手を引くと、やりがいを感じないため辞めたように見られてしまうのではないかと思います。それは別に問題ないわけですが、どうしても生徒が1番、そして保護者も、もしかしたら同じ教員の方も、関わらない先生に対しての感情がどうしても出てくると思います。そちらのフォローということが、案外、必要なのかなというように思います。それが権利として認められる以上、その人はさぼったり、楽をしているわけではないというような視点が必要なのかなと思います。正直、保護者からすると、やはり関わって欲しいなという

ころはあるけれども、資料にあるストレス、多忙感、研究の妨げ、こういうふうになってしまうのであれば、これはもう、認めていくというようなスタンスを皆がとらないと、その先生がすごく居づらいようになると思います。

もう1つは、資料の21ページの今後の地域クラブとまちづくりのことについてです。先ほど部活動と地域のスポーツ団体との融合というような説明がありましたが、非常に良いかと思います。ある意味、無駄がないというか。一方で、どうしても気になるのは競技性の追求についてです。このことが確定ではないにせよ、もちろん勝ち負けというのは必要ですけれども、競技性の追求ということを、第一としない。特に社会人についてですが、社会人はすごく年齢の幅があると思いますが、健康のためだとか、勝っても負けても皆でやるから楽しい。そういうような雰囲気である団体があって、そこに無駄がなく、同じ競技だからといって一緒になった時に、勝ち負けを求めていくグループと、和気あいあいと楽しくやりたい人がうまくいかなくなって、結局同じ競技なのにまたバラバラになってしまうことは、すごくもったいないと思います。中学生にとっても、社会人にとってももったいないような気がするので、その辺りの心遣いが必要なのかなと思います。練習内容の吟味という表現で押さえてありますけれども、それ以上に何かスタンスの確認、感情的なもののすり合わせ、そういうのがすごく必要なのかなと思います。そういうことがうまくいけば、幅広い年齢層の方々が一緒になって取り組めるスポーツクラブというのが成り立つのではないかなというふうに思います。

○中村企画課長

先ほどのお話で1点、バドミントンのように部活動にはないが、地域に既存にあるスポーツクラブでのみやっている競技については、中学生がやりたいと思ってできて、指導者もいるということであっても、部活動を地域クラブと名を変え出した場合に、新規の部活動として扱わないということでしたが、地域クラブ化したものと元々スポーツクラブにあるものとの違いといった部分というのは、どういったものがあるのでしょうか。

○益田学校教育課対策監

あくまでも部活動の地域移行ですので、部活動としてやってきたものを地域へということが前提で、部活動の意義として、今まで学校が大事にしてきていた部活動で培ってきた子どもたちの学びを地域に移行するということです。私たちはスポーツ協会ではないですし、スポーツを全面的に推進していくという方針ではありません。加えて、これ以上手を広げては破綻してしまいます。その2点から、それぞれ学びとしてのスポーツとスポーツ協会が運営していくスポーツの1つという形で区別していただきたいと思っています。支援の範囲としては別のものという扱いです。

○中村教育長

今日は校長先生方も来ていらっしゃるのでも、関わらない先生の思いというのは、やはり皆様感じていることだと思います。理解をしていただければならないことだと思います。

少し考えてみてください。私は体育の教師でしたので、部活動に関わるのが楽しかったです。でも、例えば社会の先生が授業に活かそうとしたら、その休日に旅行へ個人的に行って、色々な

ものを見てきて写真を撮って、生の話をする。また音楽の先生が色々なところに行って、音楽を聞いてきて、そしてそれを子どもに活かすという手も良いですね。働き方改革というのはそういうことではないのかなと思います。今は色々なことにも拘束されていて、自分のやりたいことができなかったことがある。だからそのようなことができるようにしていけば、もちろん休んでもらうことは確かですが、生きてくるかもしれません。そんなことをぜひ校長先生方にも話をさせていただきながら、これを少しずつ地域の方に、保護者の方に理解してもらおうようにしていければいいかなと思います。

もう1つ、平日は部活動という形でやっていきます。16時半までやっているということですので、休日に関わらないからと言って、全く関わらないことはありません。そうすると、きっと先生方は試合になると、自然と応援に行ったりすることもあるのではないかなと考えております。

○中村企画課長

ありがとうございました。小口委員お願いいたします。

○小口委員

今、説明聞きまして、部活動という言葉が出てきています。今の話はほとんどスポーツ系の話ばかりでした。資料の11ページを見ると、文化系については吹奏楽と美術が単独ということになっています。ということは、文科系の吹奏楽と美術をやりたいという子は、南中と下呂中に通っている子しかできないということですよね。文化系の部活動については、このまま南中や下呂中で生徒数が減っていったって、存続できなくなったら、下呂市は運動系の部活動だけになるという捉え方なのだろうなということを、お話を聞きながら思いました。

2つ目ですが、先ほど三木委員がおっしゃったようにこれをどう皆さんに周知するかということです。育成会などでお話をしても、中学生の保護者ですよね。こうやって話をしていることがホームページなんかで公開されたとしても、ホームページを確認する方はそんなにいらっしゃらないと思います。そういった情報がある中で、話が独り歩きしてしまっ、変な理解をする方が増えてしまうのではないかとすごく心配しています。ですから、そういった面でやはり市民の皆さん、特に今の小学生の保護者、その人たちを含めた地域の皆さん方にどう伝えていくかっていうことを十分考えていただくことが大事なかなと思いました。

○益田学校教育課対策監

文化系につきましても、指導員の募集はしておりまして、今、下呂中と金山中は合同で吹奏楽をやっていただいております。文科系についても推進しております。スポーツ協会とかスポーツのことがちょっと多めになっておりますが、文科系についても指導者の方を確保しつつ、やれる体制をとっていつている状況です。

2つ目のどう周知するかということですが、やはり今おっしゃられたように、市民の方にどう伝えるのかという方法につきましても、学校からも周知していただくとともに、教育委員会事務局からも、例えば学校からのお知らせをデジタルで通知していたりしていますので、小中学校の保護者の方には、デジタルで通知を出そうとも思いますし、場合によってはどこかで、お話しする機会をいただきたいと思います。また、本格的に来年度から進めていきますので、今年度中に、

そういった会合を検討させていただきたいと思います。

○小口委員

広報誌に掲載するのも1つの手かなということを思っています。

それから特に文科系のことを思ったのは、2、3日前に中学生の合唱コンクールがテレビで放送されていて、代表に選ばれた学校の子どもたちのうれしそうな顔を見て、下呂市にも合唱をやりたい子もいるだろうなと思ったので、スポーツ以外でもやりたい子がいるということは忘れないでいただきたいと思います。

○中村企画課長

発信につきましては、様々なケースもあるということで、こういった会議を通して教育委員会と市長部局が連携して一緒に進める形が重要なのかなと思います。

ありがとうございました。それでは、細江委員お願いいたします。

○細江委員

これまでの会議で我々教育委員が言ったことを、細かいところまで積み上げていただきまして本当にありがとうございます。

新たな質問ではないのですが、当然1番根っこにあるのはやはり移動です。長距離の移動、それと移動の回数、中学校間の移動時間、その辺がどうクリアできるのかが1番大きい問題だと思います。

そういったところで卒業式のシーズンに、ある校長先生と話した時、もっと保護者の方々を活用してはいかかかということを言われました。その方は中学校の部活をかなり熱心にやられてこられた方で、保護者の方々の様子を見ているものですから、保護者の方々にご協力いただくという手もあるのではないかとことを言いたかったのだと思います。

移動に関しても週1回とか、土日だったらこういった形で行うのかという、そういう制限がかなりあると思います。そういう面をクリアすることに関しては、熱心な保護者が大勢いらっしゃるので、ご協力を仰ぐのが良いのではないかと思います。

中学生に関しては、保護者の方々はもっと子どもを見るべきだと思います。家庭の事情や色々な状況で、それが叶わないこともあります。子どもと一緒にいられる時間は本当に限られていますので、もっと保護者の方々に協力を要請してもいいのではないかなと思います。

それと、先生に関してです。スポーツに関しては、先生方をうまく活用するということがありましたが、前回も少し話したことですが、中学・高校・大学とスポーツをやってこられた先生を小学校に赴任させるのはいかなものかなと思っております。本人が希望しているなら良いのですが、中学・高校・大学とスポーツをやってきて、そのスポーツができずに小学校で力を余らせている、そういう先生が大勢いるようです。ですので、そういった経験を積んだ先生を適材適所で、できれば部活の顧問を務められるように中学校へ赴任させていただきたいなと思っております。

先日下呂市内の中学校が野球の大会で準優勝しましたが、それに前後して、古川中と神岡中の吹奏楽の合同部活動が県大会で優勝したという記事を新聞で見てびっくりしました。野球は学校

がバラバラでもバッテリーが揃えば勝ち進むこともあります。が、中学校の合同の吹奏楽部で、パートの単独練習はできても、週に数回だけであろうアンサンブルの練習だけで、県大会を優勝するというのは、どのような練習をされてきたのか、非常に興味を持っています。もし機会がありましたら、下呂中と金山中は合同でやられているということなので、古川中と神岡中の練習方法を教えてもらいたいかもしれません。ひょっとしたら、週に何回も合同練習をやっているかもしれません。古川中は熱い保護者が揃っていますので、そういうこともあるかもしれませんけど、そういった情報を集められてもいいかなと思います。

それと最後にもう1つ。先ほど文化系のクラブが少ないということだったのですが、前々からずっと言っていることがあります。合唱部を合同で作っていただきたいということです。下呂の子どもたちは小学校からずっと合唱をやっているのです。下呂の小学校、中学校の合唱のレベルは高いと思います。3年みっちりやったら、入賞どころか金賞も取れるのではないかと思います。是非とも合唱部を合同で立ち上げていただきたいと思います。

○中村企画課長

ありがとうございました。

今回取り上げられなかった予算の部分につきましても、県に要望を進めていくなど、今後予算協議の中で必要性を協議していくというような話になるかと思われます。

それでは教育長最後に何かございますでしょうか。

○中村教育長

今日は意見を言わせていただきました。また、色々な意見を聞くことができてありがたかったです。

今日のご意見を参考にしながら、本日は校長先生たちにも来ていただいていますので、また校長会の方からも色々な案をいただきながら、皆で作っていく地域クラブにしていきたいと思っています。よろしくお願いします。

○中村企画課長

ありがとうございました。それでは市長に総括をよろしくお願いいたします。

○山内市長

私は教育長の考え方に大賛成です。今後委員の皆様のご意見をしっかりと加味しながら、本日の会議内容に沿った方向で進めていただければいいと思いますし、予算も前向きに検討してまいります。とにかく子育て支援の極めて重要なジャンルだと思っていますので、こういったことに税金を使っても市民で不平をおっしゃる方はおみえにならないと思います。市民が喜んでいただけるものに税金を投入させていただくということは、全然気にしておりませんので、使わせていただきたいと思います。

地域移行というのは結局は、資料9ページのR5の動きのところで、今後土日は地域クラブとして活動していくという話ですけど、実際にはいつからやっていくという話ですか。

○中村教育長

令和5年なので、もう今動いています。

○山内市長

もう動いているわけですね。

それで、今後の地域移行というのは、これは平日も含めて地域移行にしていこうということではないですね。

ただ、もう動いているのだけれど、先生方の手当や、指導員の方々を今は教育委員会が任命しているが、今後は誰が任命するのかというのはまだ決まってないということですか。今後やらないとならないのは、どこなのでしょう。

○中村教育長

大きく変わるのは、教員はやりたい人だけが指導者として参加するというのが、来年度の大きな動きです。

○山内市長

それは資料の何ページに書いてありますか。

○中村教育長

資料の14ページがやりがいを感じている地域クラブ指導者による各地域クラブの運営ということになります。このやりがいを感じている地域クラブの指導者というのは、社会人の指導者と学校の指導者になります。

ちなみに指導者として参加いただける先生については確保しています。

○山内市長

我々としては資料17ページの謝金の予算立てのところを大体見ていけばいいわけですね。

R6からは、指導者として先生も含めて、地域スポーツにもともと携わっていた方も入って82名必要になるから、これでスタートしていくという理解でよろしいですね。ということはR6までには、それなりの予算立てをしてくれという話ですね。ただ、県費との関係をどうするかについては、これから県と話をされるという理解でいいですか。

○教育委員会事務局

はい。

○山内市長

わかりました。

あとはスポーツ協会とのすり合わせについては相当できていますか。例えばこういう会合にオブザーバーとして今後参加してもらうなど、スポーツ協会は承知しているのでしょうか。

○青木まちづくり推進課長

スポーツ協会は昨年度、成人スポーツについて、競技スポーツ団体と一般の方が体を動かす喜びを感じるようなスポーツの習慣をつけていくという地域スポーツを統合して発足しました。次は少年スポーツについて、既存の習い事の団体やスポーツ少年団等も同じように統合の流れがありますので、そういうところをスポーツ協会の中でどう取り込むかということ、これは主に令和6年度の課題として、スポーツ協会も試していただいております。市のスポーツ推進審議会、組織的にどうするかというのを令和6年度に揉んでいくことになります。少し部活よりは遅れておりますが、部活動と部活動以外の少年スポーツ・習い事等も含めたジュニアスポーツの統合のあり方みたいなものを進めていく予定にしております。具体的なところはまだ進んでおりません。

○山内市長

部活動を学校から地域へ移行することを令和6年度から開始するのに、受け皿がスポーツ協会というのであれば、令和6年度にスポーツ協会がそれを協議していたら遅い話ですよ。今から並行してやっていかないと。さらに、移行した後のことで色々細かいことを、先ほどのバドミントンとか、もともと部活にないスポーツをどうやって指導していくのかということについては、考えていかないといけない。はっきり申し上げてスポーツ協会は組織として弱いです。スポーツ協会自体が大きな権限を持って、グリップを握ってやっているわけではないです。だから私はそこを心配しています。任命は、もちろんスポーツ協会でやってもいいのだけれど、本当にこのことを受け入れられる体制があるのかっていうことは、早急にスポーツ協会と詰めていただきたいと思います。学校の先生方が今まで学校の方で面倒見ていたことが、先生も含めてスポーツ協会へ行くということですよ。例えばそれがまだまだスポーツ協会が弱いということであれば、それこそ市の方でスポーツ協会とタッグを組んで市がしっかりその受け皿になるとかもありだと思います。

それは是非ともやっていかないといけないことだと思っていますので、その辺りはちょっと今後の問題なのかなと思います。予算付けはいいのだけれど、本当の受け皿をどうにかしないといけない。例えば文化協会とか吹奏楽と言え、下呂にも色々な吹奏楽の団体がございます。そういうところはそういうところでやるのか、そういうとこに持ってもらうのかとか考える必要があります。文化協会と言っても、あそこは様々なものを展示しあって、色々啓発するという団体なので、そこに持っていくのも難しいし、その辺りの受け皿の調整をお願いします。

もう送り出す側はかなりでき上がって、これはもうOKでしょうという話なので、もともとの受ける方が今聞いている限りでは、これ相当まだかかるよなという感じがあります。ただやはり子どもさんのためにもそこはしっかりやってください。

あともう1点聞きたいことがあります。

土日は、スポーツ協会の方へ移行したのはいいけれど、平日の部活は、スポーツ協会が行うスポーツクラブの延長線上という、競技のための部活という形になるのか、従来通りの部活という形になるのか、その辺がよくわかりません。平日は部活をやっているわけですよ。でも土日になると今度はビシバシとしたコーチが来て、大会に向かって皆頑張る。平日の時と、それがどうリンクしていくのかなと思いました。平日の学校の先生方の教え方があんまり見えてきません。

基本的には大変すばらしい案だと思います。全面的に進めていきたいなというふうに思ってい

ます。ただ、今のような話も含めると、色々問題が出てくる。ただこれは工夫すれば、それなりに解決してくる問題だと思います。あとは今、各委員がおっしゃったように、これもう半年もないので、どのように伝達するのかということでご心配されていることは、重々わかります。たった半年しかないのです、どうやって前広に市民に伝達、お知らせをしていくとかっていうことは、これも早急に検討していただく必要があろうかと思います。市民もある程度早く情報を得て、そしてある程度そうなるんだという認識のもとで、色々ことをやっていけばいいですが、突然言われると、様々な問題も出てくるかと思います。保護者の方々もある程度は知っているというふうな理解でいいですかね。

○益田学校教育課対策監

例えば、萩原南中学校の育成会に呼んでいただいて、そこでお話させていただいたりしています。

○山内市長

わかりました。

あとはスポーツ協会との調整です。今度は地域のスポーツに携わっている方など、全体が本当にそこまで知っているかというところが若干ありますので、そのスポーツ団体への周知をもう一度やっていかないといけない。当然教育委員会ですから、学校の方を中心にされるのはわかるのですが、地域側は大丈夫かという話がありますので、地域の方も頑張って、一緒になってやっていただければと思います。

いずれにしても、このような形で進んでいかざるをえないし、先般も色々スポーツで小学校・中学校が、成績報告、全国大会出場時の報告などでお越しになっていただきますけれども、今はもう単独でなんてことはほとんどなくて、みんなが合同でやられています。だけど子どもたちは本当に外連味もなく、それをもう自然に受け入れています。我々の方が何か抵抗感があるけれど、子どもたちは自然に受け入れて、自然に同じようにやっています。子どもたちがスムーズに練習や、スポーツに集中できるような環境を1日も早く作りたいなという思いを感じましたので、また今後とも皆様方のご指導やご意見を賜ればと思います。今日は大変貴重なご意見ばかりでしたので、これを踏まえて報告をさせていただきたいと思いますので、どうぞよろしくお願いします。

ありがとうございました。

○中村企画課長

本日は大変ご多忙の中お集まりいただきありがとうございました。これをもちまして、令和5年度第1回下呂市総合教育会議を終了させていただきます。次回の開催につきましては日程が決定次第、事務局から追ってご連絡させていただきます。ありがとうございました。